

浜田復興副大臣のぶら下がり会見録
(平成30年3月9日(金)13:40～13:45 於) 東京駅)

1. 発言要旨

本日は、「3.11メッセージフォト展」をここ東京駅でスタートさせていただきました。今ほどお話がございましたように、宮城県塩竈市御出身の平間さんに、すばらしい写真を撮っていただいたと思っています。

復興庁としても、やはり風評と風化という二つの風に立ち向かっていくためにも、しっかりとメッセージを発信し、こういうイベントをしっかりと応援していきたいと思っております。

本当に皆様のお力をよろしく申し上げます。

2. 質疑応答

(問) 実際に御覧になって、いろんな表情がありましたけど、いかがでしたか。

(答) こちらが逆に勇気を頂ける感じがしましたね。私自身も実は復興副大臣として3年半関わっているんですけども、いろんなこともありました。

本当に一步一步、こうやって一人一人が笑顔になっていただけるので、こちらも頑張れるなと思います。今日もう一度元気を頂いて、これから福島に行くんですけども、その力を頂きました。

(問) 7年経ったわけですけども、今のこの7年という月日はどのように感じていらっしゃいますか。

(答) 私たちは全力を尽くしてやってきておりますけども、その中でも復興のテンポについては一様ではないとも思っております。

また、7年と時間が経っておりますので、抱えておられている課題がそれぞれ個別化、多様化、ある場合は複雑化しているようにも思われます。でも、しっかりと一人一人を支えていく、被災者の方という集団と捉えるのではなくて、お一人一人にしっかりと寄り添っていくということを、しっかりと政府としてこれからもやっていきたいと思っております。

(問) 今後、こういった被災地の方々のこういった表情を、ここに来る方々にどういうふうに取り取ってほしいと思いませんか。

(答) 被災地の方々が、本当にこういうふう頑張っているよということを感じていただいて、あっ、じゃ、この人に会いに行こうと思っていただければ、本当に幸いと思えます。

(以 上)